

広報

ただみ

3
2020 月号
No. 598
令和2年3月10日



今月の表紙

多くの皆さんにご協力をいただき、今年も盛大に開催することができた「只見ふるさとの雪まつり」。48回目を迎えた今回も、町内から多くの団体が出演し、ステージを盛り上げてくださいました。

「蒲生花輪踊り保存会」の皆さんによる「蒲生花輪踊り」では、真っ白な雪の会場に赤と緑の花輪が美しく映え、彩りのあるステージとなりました。 (関連記事：P 2～9)

《特集》

「第48回只見ふるさとの雪まつり」… 2～9

「自然首都・只見」

学術調査研究助成事業成果発表会… 10～14

《その他》

令和2年度 朝日診療所の

医療体制縮小に関するご報告…………… 15

《News&flash》…………… 16～17

《町の話》…………… 18～19



雪不足を乗り越え、今年も盛大に開催！

第48回 只見ふるさと雪まつり

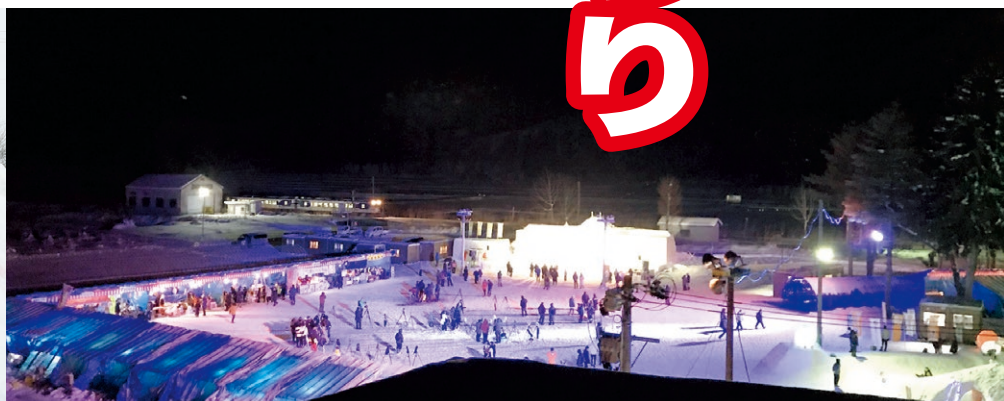
多くの皆さんが来場！
今年も大盛況の雪まつりに

2月8～9日（7日…前夜祭）、只見町最大のイベントである「只見ふるさとの雪まつり」（第48回）がJR只見駅前広場で開催され、町内外から延べ2万3千人が来場しました。

今年是全国的に雪が少なく、ここ只見町も史上まれに見る雪の少なさだったことから、一時は大雪像の制作が危ぶまれましたが、町内事業者や関係する皆さんのご尽力により、二〇二〇東京五輪をテーマと



▲子どもたちに大人気だった「どんちゃんスライダー」



▲夜の会場全景



した「東京駅（丸の内駅舎）」の美しい大雪像が完成し、来場した多くの人々を魅了しました。

会場には、例年同様、町内からたくさんの方々が来場し、本町と各分野で連携する三條市や「ふるさと交流都市」の柏市にもご参加いただきました。さらに、お笑い芸人の皆さんによる爆笑ライブやアーティストの皆さんが参加した音楽ライブ、町内の各種団体による催しなどステージイベントが途切れることなく行われ、雪まつりを盛り上げました。

前夜祭を含むイベント期間中は、県内テレビ局を中心に多くの報道機関が来場して取材活動を実施しており、改めて「只見ふるさと雪まつり」の注目度の高さを肌で感じる事ができました。

例年と比べ、雪が非常に少ない雪まつりでしたが、多くの皆さんの笑顔を見ることができた素敵な2日間となりました。



▲多数のメディアの姿も



▲多くの方々が来場



▲会場に笑いを届けたお笑い芸人の皆さん

雪不足で開催を危惧する声も

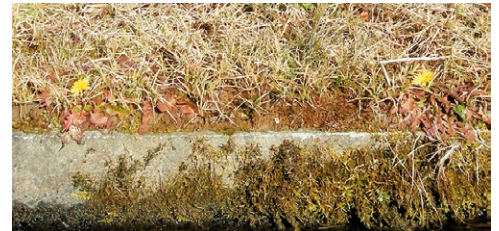
連日の報道にもありましたが、今年は記録的な暖冬による雪不足が原因で、各スキー場のリフト営業開始時期が大幅に遅れるなど会津の冬に大きな影響を与えました。(※只見スキー場のリフト営業開始日は2月7日)

町内でも「雪まつりの開催はどうなるのだろうか」という声上がり、「第48回只見ふるさとの雪まつり実行委員会」では、大雪像の制作などを中心に慎重な議論が進められました。1月より、規模を縮小して大雪像の制作が始められましたが(高さ13メートル・幅30メートルを高さ6メートル・幅20メートルに変更)、会場近くの町道の雪を使用してきた例年と異なり、今回は新潟県境の山間部の雪を運搬するなど、非常に困難な作業となりました。また、今回集めた雪は、10トントラック約200台分となり、例年と比べて5分の1程の量でした。

※「ミニ雪像コンテスト」は雪不足のため、中止となりました。



▲1月29日の会場
会場には雪が無く、この後も雨が降り続いた



▲1月下旬に町内で咲いたたんぽぽ
記録的な暖冬が続いた

▼2月7日、完成した大雪像が管家町長へと引渡された



2月6日にまとまった降雪もあり、
町内事業者や関係者のご尽力によって雪まつり前日には立派な会場が完成!



例年より規模は縮小されたものの、大雪像とともに雪で一面覆われた会場が完成し、無事に雪まつりを開催することができました。オープニングセレモニーには、今年も多くのお客様のご出席いただき、盛大にイベント開始がアナウンスされました。

雪不足の影響で雪の入場門は制作できませんでしたが、今年は、イルミネーションのトンネルが設置され、幻想的な灯りを来場者に届けました。





燃えさかる炎とともに「厄払いの儀」・「おんべ」

雪まつり1日目の夜に行われる「厄払いの儀」と「おんべ」(歳の神)は、毎年多くの方が見学に訪れ、雪まつりのメインとなる行事の1つです。「厄払いの儀」は、数え年42歳の厄年を迎える厄男衆により執り行われるもので、平成元年の雪まつり(第17回)から実施されるようになったとされています。

今年は、厄男衆代表の鈴木聖さん(岩崎)がステージ上でお祓いを受けた後、町内在住や町内出身である23人の厄男衆も松明を片手に勇ましく入場、場内のかがり火に点火をしてステージに登壇しました。代表から厄男衆が1人ずつ紹介されると、会場の熱気はさらに高まり、たくさんの来場者が押し寄せる中、福餅まきが行われました。

最後に、厄男衆が3本のおんべに点火をして「厄払いの儀」は無事、終了となりました。来場した皆さんが、拾ったお餅をおんべの火で楽しそうに焼く姿や炎が燃え盛る光景をカメラに収めている姿がとても印象的でした。



只見のグルメが大集合！「ゆきんこ市」

多くの出店が並んだ「ゆきんこ市」は、雪まつりの開始から終了まで多くの人々で賑わいました。今回は、21の団体に出店をいただき、焼き鳥、りんご飴などお祭りの定番メニューや「手打ちそば」「味付マトンケバブ」「南郷トマトマトンカレー」など只見の郷土食・B級グルメが販売され、訪れた皆さんのお腹と心を満たしました。

★今年も「かまくらバー」の吉津年浩さんより、JＲ只見線の利活用にと、売上金74,390円を寄付いただきました。



▲盛況のゆきんこ市と雪むすめ



▲(左上から)マトンケバブカフェ、太郎鯨、小池六郎、只見町そば部会、ヤマサ商店、げんき村



三条カレーラーメン (新潟県三条市)



Hot レモネード、ジンジャーエール (千葉県柏市※ふるさと交流都市)

毎年、交流都市などからご参加をいただきありがとうございます！

今年も、只見町ふるさと大使の皆さんもブースを出してくださいました



ふるさと大使は、只見町の魅力を全国に発信する町外在住の皆さん(只見町広報員)です。

今年度は、仕事などの合間を縫い、首都圏で開催されるイベント等で只見町のPRを積極的に行ってくださいました。また、町内3小学校が都内への修学旅行時に実施した只見町PR(手作りチラシの配布)にも駆け付けてくださいました。

ふるさと大使の皆さん、いつも本当にありがとうございます。



会場を盛り上げる! 「ステージイベント」

前夜祭から雪まつり終盤まで、大雪像前のステージでは、たくさんのイベントが行われ、会場を大いに盛り上げました。町内各種団体の発表や「日本レコード大賞」で新人賞受賞歴を持つ演歌歌手「徳永ゆうき」をはじめとするアーティストライブ、昨年末のM-1グランプリで3位に輝いた「ぺこぱ」らが出演したお笑い芸人!爆笑ライブなど、魅力あるステージが続きました。

◆写真【町内団体】①梁取太々神楽 ②小林早乙女踊り
③天領只見仙嶽太鼓と只見中生徒によるよさこい
④舞踊団体「はぎの会」⑤コーラス「フルール」
【アーティストライブ】⑥「徳永ゆうき」⑦「津吹みゆ」
⑧只見町出身の大竹涼華さん ⑨「宏菜」
【今年も登場】⑩ダンス&サイレントコメディー「GABEZ」
⑪「あっけらかん」マジックショー(只見町ふるさと大使)
【爆笑ライブ】⑫「ぺこぱ」⑬「夢屋まさる」⑭「ガリベンズ矢野」⑮「ペンギンズ」※来場者のゲスト登壇あり





▲歌声自慢の皆さんが集うカラオケ大会



▲只見音研歌謡ショー

雪まつりの主役は町民の皆さん！

「只見ふるさとの雪まつり」は、実行委員会だけでなく、町民の皆さんによって作り上げられています。イベント期間中には、多くの方が様々な形で参加し、会場内外で見所が盛りだくさんの雪まつりを開催することができました。

雪まつりには、只見の伝統や文化、食などの魅力に加え、町民の誇りが詰まっています。今回も、そうしたものを町外から来場いただいた大勢の皆さんにお届けする絶好の機会となりました。



▲ゲームイベント「長靴飛ばし」



【写真左から】雪中大神輿、2月1～16日に開催された渡部等さん(小川)の作品展、只見の習俗「火の用心」の紹介、只見高生が作成した雪まつりPRポスターの紹介

※出演・出店等いただいた全ての皆様の撮影・掲載ができません申し訳ございません。



「しぜんしゅと・只見ファッションコレクション」の開催告知も行われました！

(株)バンダイナムコエンターテインメントが展開する「地元アソビづくり隊！」。只見町の子もたちが発案したアイデアが第1回優秀賞に輝き、それを形にするイベントが開催されることとなりました。JR只見線車両などを舞台に、豪華ゲストをお招きして地元の仕事着を使ったファッションショーが行われます。

(詳しくはバンダイナムコのHPをご覧ください。)

※雪まつり会場では、令和2年3月20日の開催と告知されましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催が4月以降に延期されることとなりました。



▲発案した子どもたち雪まつり会場で告知を行った



「第48回只見ふるさとの雪まつり」にお越しいただいた皆様・開催にご協力いただいた皆様・来られなかったけれど応援してくださいました皆様、本当にありがとうございました。次回のご来場を心よりお待ちしております。

令和元年度 「自然首都・只見」 学術調査研究 成果発表会



▲研究発表をいただいた8名の方々と菅家町長（中央）

「自然首都・只見」のブランド力向上に向けて

令和元年度「自然首都・只見」 学術調査研究成果発表会

1月26日、令和元年度「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業成果発表会が朝日振興センターで行われ、町内外から44人が参加しました。

これは、只見町の自然環境、生物多様性、民俗・文化に関する調査研究に対し、町が助成をする「自然首都・只見」学術調査助成金を受けた研究者が成果発表を行うもので、今年度で8年目となります。同事業の実施により、只見町の価値が科学的に評価され、「自然首都・只見」のブランド力が高まることが期待されています。

今年度は、8名の研究者が助成金の交付を受けて研究を行い、成果を発表いただきました。

開会にあたり、菅家町長から「この事業は平成24年度より実施されており、今や只見ユネスコエコパークを特徴づける事業です。これまで多くの研究者に只見町の自然や文化を調査研究いただき、新たな価値が発見され、学会や学術雑誌を通じ本町の情報を発信していただきました。住民の方々にも調査研究へのご協力をいただいています。こうした研究者と住民との協働により、本町や只見ユネスコエコパークの価値が磨かれ、将来の発展に繋がることを信じています」とあいさつがありました。

また、発表後、只見町ブナセンターの紙谷館長より「学会で発表するようなレベルの高い研究であるため、これらの成果をわかりやすく町民の皆さんにお伝えして只見町の素晴らしさを再認識してもらえよう、ぜひ様々な場面で発信していただきたい」と講評がありました。



▲多くの方々が成果発表に耳を傾けた

ハリエンジュとヤナギ類の分布に及ぼす河川環境と生理生態的要因

新潟大学農学部生産環境科学科 平山 ころろさん

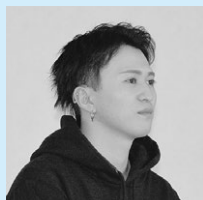


調査の目的・方法

外来種ハリエンジュは分布を拡大し、河川域の生物多様性に大きな影響を与えている。伊南川流域において、只見町より上流ではハリエンジュ林が多い一方、下流に位置する只見町内では少なく、ヤナギ類が優占する自然の河畔林が維持されている。本研究では、なぜこのような分布の違いが生じるのかを明らかにするため、(1)ハリエンジュ母樹の流域分布、(2)ハリエンジュとヤナギ類の実生の分布と生残、(3)各樹種の耐水性を調査した。(1)は伊南川本流域において、(2)は下流域の中州において現地調査を行った。(3)は、ハリエンジュとヤナギ類の実生をビニールポットに定植し、耐水性を調べる実験を行った。

結果・考察

ハリエンジュ母樹は、中州と河畔に限ると上流1本、中流域180本、下流域26本が確認された。実生の分布調査では、実生の翌年の生残率はヤナギ類で高く、ハリエンジュでは半数以下だった。また、2019年10月の台風19号の増水でハリエンジュの樹高2m以下の個体は全て消失したが、ヤナギ類では樹高0.5m以下でも生残している個体があった。耐水実験では、1年未満の実生の実験処理後の生存率はヤナギ類の方が高かった。1年を経た実生では生存率に差はないが、ハリエンジュで重量・成長量の減少が確認された。これらの結果をまとめると、伊南川の下流域では、中流域より河川幅が平均50m広く、融雪洪水や大水によって流路変動が生じやすいため、耐水性の低いハリエンジュの定着・更新が抑制されていることが考えられた。



実験下におけるヤマアカガエル幼生とクロサンショウウオ幼生の誘導防御および誘導攻撃に関する表現型可塑性

新潟大学農学部生産環境科学科 清水 宏一郎さん

調査の目的・方法

北海道に生息するエゾサンショウウオは、共食いにより大顎化する「誘導攻撃」を、エゾサンショウウオに捕食されるエゾアカガエル幼生は、捕食されにくいように膨満化する「誘導防御」を発現することが知られている。これら環境に応じて表現型を変化させる能力は、「表現型可塑性」と呼ばれており、このような表現型可塑性に関する研究は進化学的に重要なテーマとなっている。本研究では、この形質の変化が北海道に生息する種固有の性質のものなのか、他種にも共通して発現するものなのかを明らかにするため実験を行った。佐渡島と只見町で採集した卵嚢から孵化したクロサンショウウオ幼生を用い、水槽内の個体密度を変えて飼育し、共食いによって大顎化が発現するかを調べた。また、大顎化したサンショウウオ幼生とヤマアカガエルの幼生を同じ水槽内に入れて飼育し、他種に対応して大顎化が促進されるのか実験を行った。

結果・考察

個体密度を変える実験では、個体密度の高い水槽でクロサンショウウオ幼生の共食いと大顎化が確認された。また、ヤマアカガエル幼生を入れた飼育実験では、サンショウウオ幼生の目の高さでの頭幅と体長に増加がみられ、他種の存在により大顎化が促進される可能性が示唆された。しかしながら、クロサンショウウオの大顎化の発現頻度は40匹に1匹の割合であり、エゾサンショウウオの10匹に1匹よりも低かった。今後は実験下だけでなく、自然の生息環境下でも調査を行い、これらの違いを検証する予定である。

ブナの開葉日はなぜ異なる？—ブナ林内・個体内の葉群高および光環境との関係

横浜国立大学大学院環境情報学府 西坂 志帆さん



調査の目的・方法

植物が1年を通してより多く光を獲得するために開葉時期は重要である。只見町に生育するブナ林は、純林が多く、同質な性質を持つ葉群(葉の集まり)間に光をめぐる競争が生じていると考えられる。また、多雪地であるため、稚樹の多くは残雪により開葉が遅れ、光獲得において不利な状況にある。本研究では、このような只見町のブナ林で、どのような順序でブナが開葉するのかを群落内と個体内に着目して明らかにした。

只見町の下福井および檜戸の2か所のブナ林において、2017年~2019年の4月から5月にかけて、個体ごとに冬芽から葉が完全に展開するまでを記録した。また2019年には、樹高4m以下の個体について、光環境と開葉日との関係を明らかにするため、照度を測定した。

結果・考察

雪の影響を受ける葉群では、下福井においては、樹高と葉群高は開葉日に影響しなかった。しかし、檜戸では、樹高が低いほど、あるいは個体内の葉群高が低いほど開葉が遅れた。雪の影響を受けない葉群では、両調査地で樹高が高いほど遅く開葉した。個体内では、下福井で、樹高の低い個体では林冠上部から、高い個体では林冠下部から開葉する傾向が見られた。一方、檜戸では個体内の低い位置の葉群ほど遅く開葉した。また、稚樹における開葉と照度の関係は、春の相対照度が低い葉群ほど早く開葉した。これらより群落内あるいは個体内で開葉時期の光獲得に有利に働く開葉パターンが存在し、また春の光獲得がブナ林で生育するブナ稚樹にとって重要であることが示唆された。



只見産植物における機能性(抗酸化活性・消化酵素阻害活性) 評価

茨城キリスト教大学生生活科学部食物健康科学科 目黒 周作さん

調査の目的・方法

近年、肥満や糖尿病などの生活習慣病が増加し続け、社会的な問題となっている。生活習慣病の予防には、食品中に含有する機能性成分の活用が期待されている。特に食後の急激な血糖値の上昇抑制には糖質消化阻害物質が有効であるとされており、また、細胞を酸化させることで老化の原因となる活性酸素の除去には抗酸化性をもつポリフェノール類の効果が期待されている。

本研究では、只見産の植物を対象とし、糖質消化阻害物質あるいは抗酸化性を持つ物質を含有する植物を特定し、その物質の精製・単離を行うことを目的とした。試料としたのは、事前実験で高い糖質消化阻害性あるいは抗酸化性を示したヤマグワ、コチャメルソウ、フキの各葉部とフキの葉柄とした。

結果・考察

ヤマグワからの抽出物では、 α -グルコシターゼ阻害活性という糖質消化阻害が認められ、その成分は1-デオキシノジリマイシン(DNJ)であることがわかった。フキ葉部の抽出物では、同じく α -グルコシターゼ阻害活性が認められたが、これは初めての報告となる。コチャメルソウでは、同じく糖質消化阻害であるが、アミラーゼという酵素の活性阻害が認められた。コチャメルソウではさらに、抗酸化性が認められた。コチャメルソウの機能性についての学術的な報告は本件がはじめてである。フキの葉柄からの抽出物にも抗酸化活性が認められた。今回の実験では、物質名が明らかとならなかったものもあるため、さらなる試験を行う予定である。

ゲノム解析による只見町ブナ個体群の 個体数変化推定

京都大学大学院地球環境学堂 阪口 翔太さん



調査の目的・方法

ブナは日本固有の樹木であり、冷温帯域の多雪地域では優勢な森林を形成する。しかし、最終氷期(7万年前~1万7千年前)の寒冷で乾燥した気候下では日本海側のブナ林は小規模だったと考えられている。最終氷期を含む第四紀(258万年前以降現在を含む)後期は、氷期と間氷期を繰り返していたため、多雪環境となった時期だけブナは優勢だったと考えられる。

本研究では、第四紀後期にブナ林が発達するまでに個体数がどう変化したのかを明らかにする。そこで1個体の生物のゲノムデータ(すべてのDNAの遺伝情報)から過去の個体数増減を推定できるPSMC法を用い、ブナの歴史的な個体数変化を調べた。只見町田子倉に自生するブナの葉を1枚採取し、北海道、京都府で採取したブナを加えてゲノムデータの解読を行った。

結果・考察

只見町産のブナのゲノムデータから、約50万年~数千年前のブナ個体数の変化を推定することができた。約200~300万年前をピークに約9万から6万個体に減少し、また500~1000万年前にも一度だけ減少期があることが示された。同様の変化は他地域のブナでも確認されている。200~300万年前以降の個体数の減少は、第四紀の乾燥した氷河期気候が繰り返し日本列島を襲ったこととの関連している可能性がある。500~1000万年前については、当時のブナ化石の産出量が乏しいことから、この時代に祖先種からブナにつながる種が生じ、列島内で細々と生き延びていたことを示している可能性がある。



只見町に伝わる生物資源利用に関する 伝統的生態学的知識の保全と活用

東京学芸大学 小柳 知代さん

調査の目的・方法

自然の恵みを持続的に享受するために、農山村の住民は、自然環境と伝統的な生活文化を結びつける生態学的知識(地域知)を培ってきた。地域知は様々な自然の恵みを引き出す糸口であり、将来世代にとっては自然環境の豊かさを享受する際の選択肢の確保や拡大に直結する。

本研究では、只見町の既存の郷土史や只見町で実施された調査結果を網羅的に収集し、地域住民に利用されてきた生物資源のデータベースを構築した。さらに、明和、朝日、只見の3地区の60代後半~80代後半の年長者の方々への聞き取り調査を行い、地域ごとの生物資源利用の特徴を捉え、その変化を示す年表を作成した。

結果・考察

只見町で利用された植物は計86種(山菜45種、木の実28種、薬草18種、重複を含む)であり、野生動物は10種、キノコ類27種(+1分類群)、魚類や貝類10種が記録でき、総計で133種1分類群にわたる野生動植物資源利用の地域知が整理できた。生物資源利用の変化は、主に(A)食糧難の時代にも利用された種、(B)現在でも利用が続いている種、(C)高度成長期以降に生活スタイルが変化し、代替品へ置き換わり利用されなくなった種、(D)近年利用が増加傾向にある種の4つに分けられた。地域知の消失の背景には、代替品の利用、資源量の減少、生活スタイルの変化があるが、量が採れるものや季節の味覚として価値のあるものなどは現在まで残る傾向があった。今後は、こうした地域知の継承や現代的な価値の再発見の可能性を具体的に検討していきたい。

只見町におけるトキソウの遺伝的多様性の評価と保全

京都教育大学教育学部 長尾 賢治さん



調査の目的・方法

トキソウは東アジアの日当たりのよい酸性湿地帯に生息する多年草であり、只見町では「只見町の野生動植物を保護する条例」の貴重野生動植物種に指定されている。只見町の大曾根湿原に自生するトキソウは湿地環境の変化や盗掘等により絶滅に近い状態である。一度個体数が減少した個体群では、その後に個体数が回復したとしても、遺伝的多様性の低下により絶滅リスクが高まる可能性が考えられる。

調査では、町内の複数の自生地トキソウの葉を採取してDNA解析を行い、遺伝的多様性を評価し、近畿地方や北海道の集団と比較し、その保全の緊急性を検討した。また、大曾根湿原のトキソウについては、自然受粉したさく果を採取し、無菌播種法による増殖を検討した。

結果・考察

町内の2か所の湿原では、100個体以上の開花個体が確認されたが、別の2か所の湿原では葉のみの個体を合わせても十数個体しか観察できなかった。各湿地内に生育する個体間の遺伝子を比較したところ、大曾根湿原の試料は全て異なる遺伝子を持つ株だったが、その他の湿地では約30%で同じ遺伝子からなる株が含まれていた。また、町内のトキソウの遺伝的多様性は、近畿地方や北海道の集団と比較すると中程度と考えられた。湿原間でトキソウ集団の遺伝的な距離を調べた結果では、遺伝的に離れた集団があることが確認された。無菌播種法による増殖実験では、発芽はしたものの成長しなかった。これは、さく果の採取が発芽に適した時期からずれていたものと推察された。



只見町におけるアシナガバエの多様性

滋賀県立琵琶湖博物館 梶永 一宏さん

調査の目的・方法

アシナガバエ科は双翅目に属する昆虫で、水辺に生息し、幼虫、成虫共に小さな節足動物などを捕食している。幼虫期には水生生活を行うため、年間を通して水の涸れない安定した水域が必要であり、さらに環境により生育する種類が異なるため、水辺環境の多様性を評価するためには適した生物である。本研究は、只見町の水域の生物学的な重要性を示す基礎資料を作成することで、只見町の淡水域の社会的意義の理解と価値の向上を目指し実施した。

調査は、アシナガバエの最盛期である6月から8月にかけて3回、10地点において行い、採取、同定を行った。

結果・考察

特筆されるグループは、林床の濡れた落ち葉や水たまり周辺にいる *Dolichopus* 属、河原の砂地に生息する *Tachytrechus* 属、溪流内の岩の側面にいる *Hercostomus* 属、溪流や石清水の周辺にいる *Diostracus* 属、溪流の水辺に生息する *Liancalus* 属があげられる。また、ブナの林床では *Rhaphium* 属、*Syntormon* 属などを採集することができた。これらの中で比較的国内分布が調べられている *Diostracus* 属は5種見つかリ、そのうち日本固有種の *Diostracus yukawai* は国内分布の最北端であることが判明した。林床の豊かな下層植生帯に生息する *Dolichopus* 属や *Hercostomus* 属、自然度の高い溪流に生息する *Hercostomus zhenzhuristi*、*Diostracus tarsalis* なども確認され、自然で良好な環境が保たれていることが示唆された。また、未記載種(新種)である可能性のあるものが複数種見つかリ、解剖により詳細な形態観察を進めている。

令和2年度 朝日診療所の 医療体制縮小に関するご報告

以前から、只見町は看護師不足など医療従事者の不足に悩まされております。大変残念ながら、医療従事者の不足が改善するどころか、さらなる苦境が見込まれております。令和2年4月以降は、会津若松の医療機関からの看護師派遣がなくなり、また、朝日診療所に務める医師の数がこれまでの3名から2名に減少する見込みであります。

これまで、何とか夜間・休日も含めた24時間体制での診療を維持していましたが、医師2名でその体制を維持すれば長時間労働は避けられず、体調を壊す恐れがあります。町民の皆様には申し訳ありませんが、夜間の診療を制限せざるを得ません。具体的には、令和2年4月以降の夜間診療について、平日は夜8時以降、土日・祝日は夕方5時以降の急患対応をお断りさせていただきます。

看護師不足の問題も深刻化しており、入院病床の縮小や訪問看護の縮小などが続く見込みです。平日の予約外来におきましても、予約が取りにくくなることや医師・看護師が少なくなった分、待ち時間がどうしても増えてしまうことなどが予測されます。

町として医療従事者確保に全力をあげて取り組んでおりますが、福島県全域で看護師不足があることもあり、確保には大変苦勞しております。

町民の皆様には大変ご迷惑をおかけし申し訳ありませんが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



令和2年3月

朝日診療所 所長 若山 隆

**ライザップと連携する健康増進事業
合計約120キロの減量に成功!**

2月3日、只見町とRIZAP（ライザップ）が連携する健康増進事業「イイからだづくりプログラム」の今年度最終回が保健福祉センターで行われ、受講生20人が参加しました。同事業は、町の健康課題である「肥満」の解消や「糖尿病」の予防、生活習慣の改善に向けて昨年度より行われているライザップの出張型プログラムです。受講生は、全8回に渡り食生活や運動に関する講義、筋力・柔軟トレーニングを受けながら自宅での食生活などにも気を配り、健康への高い意識を持って3カ月間のプログラムに取り組みました。



▲最終回は強度を増した筋力トレーニングを実施



▲受講生と大橋トレーナー（下段中央）

最終回は、体組成計で体重や筋肉量などを測定した後、これまでよりも強度を増した筋力トレーニングを行い、最後にこれまで皆さんを支えた大橋トレーナーから受講生全員に修了証が手渡されました。修了証を受け取った皆さんは、清々しい表情で「グループの皆がいたから最後まで頑張ることができた」「今後の生活習慣の改善に向け、継続して頑張りたい」などとプログラムを振り返りました。

今年度は、受講生全員で計「119キログラム」の減量に成功し、健康意識の向上や生活習慣の改善を受講生が身をもって経験することができました。



▲町民の皆さんや関係者も多く参加した

**「第7回全国海洋教育セミナー」只見中が優秀賞を受賞！
小中学生が海洋教育の成果を発表**

2月4日、町内小学校の海洋教育成果発表会が朝日振興センターで開催され、町民の皆さんや関係者が参加しました。同会は、町内3小学校が一年間実践してきた海洋教育学習、そしてESD（持続可能な開発のための教育）の成果を町民の皆さんに発表するもので、毎年行われています。

当日は、各校の6年生が「観光」「防災」「まちづくり」などの観点から「只見町の未来」に関して学んできたことを発表し、児童たちの考えや想いを参加者に伝えました。最後に、来賓として参加した東京大学大学院の丹羽特任准教授と川上特任研究員より、全国海洋教育サミット



▲優秀賞に輝いた只見中学校の生徒たち（東京大学にて）

に向け、相手に伝わる発表の仕方や各発表内容の中で強調すべき部分などについて様々なアドバイスをいただきました。

2月15日、町内3小学校と只見中学校を含む、計66団体の皆さんが全国各地から参加した「第7回全国海洋教育サミット」（会場：東京大学）では、只見中学校が最優秀賞（1団体）に次ぐ優秀賞（2団体のみ）に輝きました。これは、中学校に限らず、小学校から培ってきた海洋教育の成果が広く認められたものであり、只見町全体としての受賞とも言える素晴らしい結果となりました。

国内での感染拡大を受け 新型コロナウイルス 対策連絡会議を設置

2月25日、全国各地で新型コロナウイルス関連感染症の感染拡大が続く状況を受け、只見町に「新型コロナウイルス対策連絡会議」（本部長・町長、副本部長・保健福祉課長）が設置されました。

2月末現在、福島県内における感染者の報告はありませんが、町が主催する不急かつ不特定多数の方が参加する感染のリスクが高い行事・イベントは、状況により延期又は中止する対応となります。

町民の皆さんにおかれましては引き続き、咳エチケット（マスク着用等）や手洗いなど、通常の感染症対策を徹底していただくようお願いいたします。



▲各施設に周知チラシなどが設置された
(写真：保健福祉センター)

県産材で木質化を推進 JR只見駅待合室がリニューアル

2月6日、JR只見駅待合室が木の温かみ溢れる空間として生まれ変わりました。只見町観光まちづくり協会の事務所移転（昨年9月）により、同スペースは一時閉鎖されていましたが、リニューアルに合わせ、こちらにも事務所が再設置されています。

これは、県の補助事業を活用し、県建築士会山口支部の方々がデザインや工事を担当したもので、「つる細工」の網目が内装に表現されている他、只見農産加工企業組合「げんき村」（楡戸）のエゴマ油が塗装に使用されています。

観光案内や物販も実施していますので、ぜひお立ち寄りください。



▲県産スギ材で作られた物販コーナーやベンチが設けられている

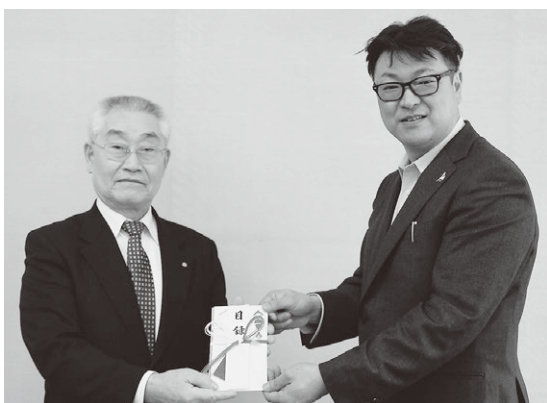
只見線ラベルの販売により 合同会社ねつかが寄付

2月17日、合同会社ねつか（梁取）協坂齊弘代表社員から町へ、JR只見線の利活用に関与してほしいと「ねっか『只見線ラベル』」千本分、計10万円の寄付をいただきました。

JR只見線の応援を目的に、千本限定で販売されている『只見線ラベル』は、購入すると一本百円が町に寄付される仕組みになっています。

寄付金は、只見線全線運行再開に向けた町の関連施策などに活用される予定です。

また、協坂さんより「二〇二〇東京五輪の聖火ランナー頑張ります！」との意気込みも併せていただきました。



★協坂さん(右)は、3/26~28に行われる「東京五輪聖火リレー」(県内ルート)只見町ゆかりのランナーです。

小学生が伝統工芸を学ぶ 「つる細工教室」を開催

2月18~19日、伝統工芸を学ぶ「つる細工教室」が町内の小学校で開催され、各校の5~6年生（朝日小は3~4年生）が参加しました。児童たちは、各地区の民芸品保存会の皆さんから指導を受けながら、籐づるを使って鍋敷きなどを作りました。初めは、慣れない作業に苦戦していた児童たちも、時間が経つにつれてコツをつかみ、上手に作品を完成させることができました。

また、今年は、東京学芸大学でつる細工の研究をしている学生2名と小柳知代准教授も参加し、児童たちと会話を楽しみながら、町の伝統工芸に触れていました。



▲つる細工に取り組む児童たち

各集落にまつわるおもしろ学を紹介

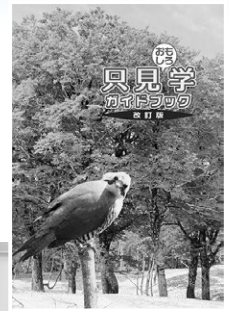
「只見おもしろ学」出張講座を開催

昨年12月・今年1月に「只見おもしろ学」の出張講座が八木沢集落と亀岡集落でそれぞれ開催され、町民の皆さんが参加しました。八木沢集落では「八十里越と八十里馬子唄に登場する「八木沢お兼」という女性は実在するのか？」を、亀岡集落では「平安時代に弘法大師(空海)が只見に来たという伝説は本当か？」などをテーマに講座が開かれました。

町教育委員会では、「只見おもしろ学」を中心に、お住まいの集落にまつわる話を掘り下げて講座を開催しています。希望される集落は、お申し込みください。

※上記のようなお話、また、講師としてお話しをしてくださる方を募集しています。該当・興味のある方はご連絡ください。

●只見町教育委員会 ☎0241-82-5320



▲八木沢集落で開催された出張講座



◀ボールを当てて、悪い鬼を退治！



▲みんなで記念撮影（会場：保健福祉センター）

かるがもクラブの節分イベント

みんなで悪い鬼を退治！

2月7日、今年度最後となる「かるがもクラブ」のイベントが行われ、町内から14組の親子が参加しました。「かるがもクラブ」は、親子と地域の交流の場として定期的で開催されており、民生児童委員の皆さんにサポートしてもらいながら、各種行事やイベントを行っています。また、町の民生児童委員は昨年12月より新体制を迎えており、今回が初の「かるがもクラブ」となる委員の参加も見られました。

今回は節分イベントが行われ、「鬼は外、福は内」の掛け声で鬼を退治した後、お菓子や落花生などが配られました。子どもたちは、鬼を少しだけ怖がりながらも、元気にイベントを楽しんでいました。

明和保育所さくら組を対象に

子どもたちがスキーを体験

2月11日、明和自治振興会生涯体育部と明和振興センターによる「未就学児向けスキー体験教室」が明和保育所さくら組(年長)を対象に、南郷スキー場で開催されました。

同教室は、雪不足の影響で開催が2月にずれ込みましたが、7組の親子と町内からのボランティア講師5人が参加し、盛況となりました。子どもたちは短時間の中でも上達した姿を見せ、参加した皆さんは親子で楽しいひとときを過ごしました。



▲参加者とボランティア講師の皆さん

とても元気な小川集落の女性たちが 「紅白玉」を作り、 朝日小学校に寄贈

2月6日、運動会の玉入れ競技で使用される紅白玉作りが小川集会所で行われ、集落の女性19人が参加しました。これは、子どもたちの健やかな成長に協力したいという皆さんの想いはもちろん、集落内でのふれあいを通じた生きがい・仲間づくりを目的に、有志によって企画されたものです。

集まった皆さんは、世間話などをして楽しみながら、手慣れた様子で次々と紅白玉を作り上げ、約2時間で100個（紅白各50個）を完成させました。

完成した紅白玉は、2月21日に朝日小学校に寄贈され、米畑校長より感謝の言葉が述べられました。



▶作業を分担し、紅白玉を作成



▶朝日小学校に寄贈

ユニークなスキー場イベント

「かちかちソフト朝食い大会」などを開催!



▲「かちかちソフト朝食い大会」の様子
皆さん良い表情です!

2月8～9日、只見スキー場で「かちかちソフト朝食い大会」や「雪中宝ひろい」などのイベントが開催され、町内外からスキー場に来ていた皆さんが参加しました。今年は、記録的な暖冬の影響でリフト営業開始日が2月7日と大幅に遅れ、お正月イベントなどが例年通りの規模で実施できていなかったこともあり、雪まつり期間に合わせての開催となりました。

初開催の「かちかちソフト朝食い大会」には、幅広い年代の皆さんが参加し、豪華景品獲得を目指して冷たいアイスのお食事に挑戦していました。

首都圏在住の親子が来町

布沢集落で冬の暮らしを体験

2月22～23日、旅いく「特別豪雪地帯」冬の暮らし～かまくらづくり体験と雪ん子のお手伝い」が布沢集落で開催され、首都圏から4組20人の親子が参加しました。これは、子どもたちにより良質な体験を届け、健やかな育成につなげることを目的に、JTBが販売しているオリジナル体験商品の1つで、布沢集落は昨年引き続き、同ツアーの舞台に選ばれています。(ツアー企画：森林の分校ふざわ)

今年は、1日目にそり滑りやかんじき体験など雪を使った遊びを、2日目に雪かきや「火の用心」の習字、打ち豆などを行いました。ツアーを通じ、集落の魅力や文化を発信することに加え、町外の方々と集落の皆さんが交流する貴重な機会となりました。

▶積雪は少なかったが、皆さんが雪を満喫



▶上手に書けました!



2月から新しい看護師さんが着任しました!

2月1日から2ヶ月間、朝日診療所で勤務していただく会津中央病院看護師の角田彩香さんです。角田さんは、学生の時に東日本大震災が発生し、看護師である先輩たちが必死に活動する姿を見て、自分も困っている人の力になりたいと看護師を志すようになったとのこと。インドア派で普段は自宅で過ごしているようですが、お酒が好きで、友人たちと飲みに行く機会も多いそうです（只見の美味しいお酒もぜひ味わってみてください!）。2ヶ月という短い間ですが、患者さんとのコミュニケーションを大切に頑張りたいと話してくれました。



角田 彩香 さん
(出身/会津若松市)

広報ただみ診療所

朝日診療所
医師 うやま やすのり
鵜山 保典



「ごあいさつ」

みなさん、こんにちは。鵜山です。今回は私事の話で恐縮ですが、最後までおつきあいください。

ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、私、鵜山は今年の3月をもって異動見込みとなりました(2020年2月現在)。只見に来て2年間という短い間でしたが、町のみなさんには大変お世話になりっぱなしでした。初めて只見に足を踏み入れた若輩の自分にも、みなさんは暖かく迎え入れてくださり、診療所の内外を問わず、とてもよくしていただいたと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

4月より、私の配属先は会津若松市内になる予

定です。もし、新配属の病院にお越しの際は、受付でも一声おかけくださいね。「鵜山」を呼んでいただければ、すぐに飛んでまいります。また、具体的な曜日、回数はまだ診療所や町側との相談になりますが、4月以降も毎週か隔週か、週に1-2回ほど、診療応援として朝日診療所でお世話になろうと考えています。これからも、鵜山に診察されてもいい、マジックが見たい、などニーズがありましたら、お気軽に会いに来てくださいね。

異動になりますが、これからも何度も只見町でお会いすると思いますので、さようならは言いません。むしろ、これからもよろしくお願いしますね。

地域おこし協力隊として Vol.63

只見町教育振興協力隊
あべ としひろ
阿部 利浩



「大人の背中」

皆さん、「グローバル」という言葉を聞いたことはあるでしょうか。「グローバル(Global)」と「ローカル(Local)」を掛け合わせた造語です。その意味は、地球規模の視野で考え、地域視点で行動する、という意味になるそうですが、特に地方においては、グローバル人材、グローバルリーダーが求められるという話をよく聞きます。地方で生まれ育った人は、良くも悪くもその地域にあるものが当たり前になって、地域の課題や良し悪しに気付き難い。もっと広い世界の視野があれば、あの地域、別の国ではこうしている、だったらこの地

域ではこうできるはずだという発想・思考ができ、なおかつ口に出すだけでなく自ら行動して課題を解決できる人が有難いというわけです。さらに、グローバルリーダーを育てるという目標掲げる学校もあちこちにあります。なるほどと思う反面、どこか他力本願な気がします。「子供は親の背中を見て育つ」とも言います。子供たちや誰かがではなく、我々身近な大人たちがたとえかっこ悪くても努力している姿こそが、教育の手始めでも思うのです。1人の大人として子供たちに見せるに足る背中を持てるよう、学ぶ努力を続けたいと思っています。

町史

とっておきの話

308

「町史とっておきの話」編集者

新国 勇

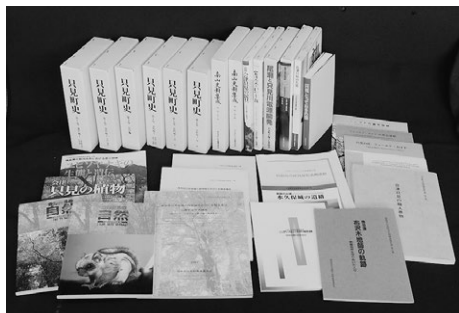
ご愛読ありがとうございます

—連載二十五を終えて—

お礼の気持ちから

はじまった連載

「町史とっておきの話」は月号をもって終了します。広報だみ誌上で平成七年に掲載をはじめから通算で三〇八回、二十五年八か月にわたる連載となりました。これは平成元年に着手した只見町史編さん事業がきっかけです。当時、資料の収集や聞き取りで町民のみなさんにはたいへんなお骨折りをかけていました。その恩返しにと、編



▲只見町の価値を高めた只見町史

さん真つ最中だった先生方の協力を得て連載を始めたのです。最初の十六年分の連載は『只見とっておきの話』として平成二十二年に刊行されました。町制施行五十周年を記念する事業でつくられたものですが、福島県出版文化賞を受賞する榮譽にも輝きました。

長続きの秘訣は

ギブ・アンド・テイク

平成十六年に町史編さん事業が終了します。その後も町によるブナ林総合学術調査や文化財調査が続きました。一方、国立歴史民俗博物館、森林総合研究所、日本常民文化研究所、神奈川大学などから大勢の研究者が来町するようになりました。只見町史が呼び水となって、只見の魅力が知れ渡った結果といえます。来町する研究者は町が収集した資料の提供を求めてきます。しかし時間と労力とお金をかけて集めたものをタダで見せるわけにはいきません。そこで

必要な資料、人材、フィールドなどを斡旋するかわりに、広報誌への執筆をお願いしたのです。連載が長く続けられたのは、ギブ・アンド・テイクという関係をつくってきたからです。

執筆は

一年以上前から準備

一つのテーマで執筆する連載は半年間とし、毎月読み切りとしました。ネタ不足では書けませんから、執筆は一年以上前から頼んでおく必要があります。数年後の掲載を念頭に執筆者を選び、テーマを絞ったうえで原稿を依頼していました。反省点としては町民の執筆がすくなかったことです。これはなかなかむずかしい課題でした。

お金のからない

ウイン・ウイン方式

大学や博物館の研究者は、その道のプロですから、ものを書けば原稿料が発生します。しかし、町が協力する代わりに原稿



▲国立歴史民俗博物館による古典籍の調査

料は無償ということでした。また、研究者は助成金をもらってきているので、成果を報告しなければなりません。そこで町民向けのシンポジウムや講演会を開いてもらうこともお願いしました。研究者側は社会貢献と実績づくりになり、町はお金をかけずに調査結果を得ることができず。双方ともウイン・ウインの関係というわけです。これまでに「民具は世界を結ぶ(平成十八年十一月、神奈川大学)」、「只見の生き物たちがもたらす森の恵み」(平成二十二年一月、森林総合研究所)、「奥会津の戦国文化をさぐる」(平成二十九年六月、国立歴史民俗博物館)などを季の郷湯ら里で開催してもらいました。

興味深いテーマを

掘り下げる

連載によって、論文発表前の情報をお知らせできたものがあります。稲葉修氏の只見産淡水魚の総確認種目録、薄葉満氏の只見産植物の未記載種目録、柳内壽彦氏の中世の只見地方、久野俊彦氏の中世古典籍の系譜などです。また、町史には未記載だった鈴木克彦氏の「只見ぜんめえ物語」や飯塚恒夫氏の「只見でマトンが食べられるようになった理由」など興味深い話も掲載できました。

おらが町はずいべ

只見町は只見町史や文化財調査報告書などの学術報告書を数多く刊行しています。只見町ブナセンターが発行する紀要や解説本も多数にのほります。さらに関係する講座やシンポジウムもたくさんあります。これほど大量の郷土研究書を持ち、シンポジウムを開催している自治体は全国でもまれです。いままでも進められてきた事業によって町の真価はますます高まっています。そして、子どもからお年寄りまで「おらが町はずいべ」と誇れるようになれば、人とモノが集まる魅力あふれる只見町となっていくことでしょう。



町民文芸

只見短歌会

一月詠草

大塚栄一

指導

寒明けも間近と言ふに雪降らず自然も変はる時代が来しか

馬場 八智

新聞の記事にひかれてスクラップ整理もならず月日過ぎゆく

関谷登美子

連れ添ふて昭和の激動歩み来し六十六回の新年迎ふ

渡部ゆき子

困ひより出でし石南花枝々に数多の蕾かすか膨らむ

目黒 富子

上の孫初めて一人で泊まりし夜下の孫何度も電話をよこす

新国由紀子

降雪の少なき日々の正月の写真を友にスマホで送る

渡部ヨリ子

なが病めば食事の時のみベッドより下りる我が身ぞいつまでつづく

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

二月定例会

目黒十一

指導

山なみも一瞬見せて冬火花
あれこれと種の注文日脚伸ぶ

弘子

心の内語れる友や小正月
現場人背中頼もしや雪祭り

一恵

寒夕焼子どものたたく木魚かな
薄氷の中にひろがる空の青

恒夫

滑り止めの毛氈へ歩を雪まつり
祝餅に触れて逃せり雪まつり

礼

読めるけど書けない漢字鳥帰る
ストーブの煮えたぎる湯や誰も来ず

一穂

雪浅しスノーダンプも置き去りに
旅先に思いを馳せる春シヨール

修一

日だまりに古老二人の日向ぼこ
日なたぼこ足りたる猫の背伸びかな

吉児

農道に轍伸びゆく冬早
新雪の中に水木の赤き剪る

幸生

空の青水ぬるむ那覇海の青
首里城の焼け跡無残春日和

信

二人居の開ぬ大部屋初暦
負けん気の子供の側やカルタ会

都

病窓へ夫の目が向く年の暮
粉雪と首筋に入る夜の風

味代子



今月のお知らせ

試験

国家公務員「国税専門官採用試験(大卒程度)」のお知らせ

仙台国税局では、バイタリティーあふれる国税専門官を募集しています。国税専門官は、国の財政を支える重要な仕事を担い、税務署等において、調査・徴収・検査や指導などを行う税務のスペシャリストです。

●受験資格

▽平成2年4月2日から平成11年4月1日生まれの者の者で次に掲げるもの
①大学を卒業した者及び令和3年3月までに大学卒業見込みの者

●受験申込受付期間

3月27日(金)から4月8日(水)まで

●受験申込方法

受験申込みはインターネット申込みとする。
(国家公務員試験採用情報NAVIで検索)

●第1次試験日

6月7日(日)

●問合せ先

仙台国税局 人事第二課
試験研修係(内線3236)
022-263-1111

お知らせ

自動車の移転(変更・抹消)は忘れずに

福島県南会津地方振興局県税部より、自動車税についてお知らせします。

●自動車税の課税について

自動車税は、4月1日午前0時現在の登録名義人である所有者(割賦販売などで所有権が保留されている場合は使用者)に課税されます。移転・抹消の登録がされない、もとの所有者に課税されます。

電話番号

総務課	
総務係 財政係	☎82-5210
地域創生課	
創生企画係 広報広聴係	
ユネスコエコパーク推進係	☎82-5220
町民生活課	
税務係	☎82-5110
町民係	☎82-5100
保健福祉課	
保健係	☎84-7005
福祉係	☎84-7010
農林建設課	
農林係	☎82-5230
建設係	☎82-5270
観光商工課	
観光係 商工係	☎82-5240
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所	☎84-2221
(歯科)	☎84-2612
こぶし苑	☎84-2101
只見振興センター	☎82-2141
朝日振興センター	☎84-2111
明和振興センター	☎86-2111

で、必ず運輸支局で手続きをしましょう。3月末までに登録しないと、翌年度の税金が課税されます。

●転居した場合について

自動車税の納税通知書は、運輸支局に登録されている住所(自動車検査証に記載されている住所)に送付されます。転居した場合には、必ず運輸支局で車検証の住所変更をしましょう。3月末までに手続きを行いますと、新住所に送付されます。

●車検切れの自動車について

車検切れの自動車でも、登録されている限り自動車税が課税されます。使用しない車は運輸支局で抹消手続きをしましょう。

●その他

登録に関する手続きは、運輸支局や自動車販売店、整備工場などにご確認ください。

●問合せ先

福島県南会津地方振興局 県税部

0241-6215212

「にっぽん縦断こころ旅」のお手紙を募集しています

NHK・BSプレミアムで放送予定の「にっぽん縦断こころ旅」は、俳優 火野正平さんが自転車で全国各地を旅しながら、その場所にまつわる皆さんのエピソードなどを紹介する番組です。このたび、3月30日から「2020年春の旅」がスタートすることとなりました(福島県もルートに含む)。

番組では、皆さんからのお手紙で旅のルートを決定するため、町内の「忘れられない場所・風景」にまつわる手紙を募集しています。

●福島県の放送予定

令和2年5月18日(月)
5月22日(金)

●応募期限

4月6日(月)必着

税 今月の納期

3月25日までに
納めましょう

●農集排使用料(3月分)



●応募内容

住所、氏名、電話番号、性別、年齢、思い出の場所・風景にまつわるエピソード

●応募方法

▽番組ホームページ
「にっぽん縦断こころ旅」で検索

▽FAX

03-3465-1327

▽郵送

〒150-8001
東京都渋谷区神南2-2-1
NHK「こころ旅」係

▽お問い合わせ

NHKふれあいセンター
0570-066-066
または
050-3786-5000

人事

町職員の退職のお知らせ

令和2年2月29日付

▽地域創生課

主任主査 印南 正和

只見町議会議員

一般選挙の期日前投票

3月29日(日)は只見町議会議員一般選挙の投票日です。

投票日に投票所に行けない用事(仕事、冠婚葬祭、旅行、買い物等)がある方は、次の期日前投票所で期日前投票ができます。入場券をお持ちになって、お近くの期日前投票所で投票してください。

〔役場町下庁舎 期日前投票所〕

○期 間 3月25日(水)～28日(土)

○投票時間 午前8時半～午後8時

〔朝日振興センター期日前投票所〕及び

〔明和振興センター期日前投票所〕

○期 間 3月25日(水)～28日(土)

○投票時間 午前8時30分～午後5時

●問合せ先

選挙管理委員会 (Tel 82-15130)



町長スケジュール (2月分)

- 3日 定例庁議
- 4日 只見町内小学校海洋教育成果発表会、南郷トマト生産組合総会(南会津町)
- 5日 南会津地方広域市町村圏組合管理者会、福島県土地連南会津支部総会、南会津地方土地開発公社理事会、会津高原ふるさと推進協議会理事会、南会津地方町村会総会、南会津地方環境衛生組合管理者会(南会津町)、診療所長との懇談会
- 6日 当初予算町長査定、福島県生活環境部長来庁
- 7日 雪まつり大雪像引渡し式、医師確保のための福島県保健福祉部長要望活動(福島市)
- 8日 只見ふるさとの雪まつり(～9日)
- 10日 当初予算町長査定
- 12日 臨時庁議、診療所医師との懇談会
- 13日 医師確保のための福島医大要望活動(福島市)
- 14日 司馬遼太郎記念館 菜の花忌シンポジウム(東京都)
- 16日 会津かねやま雪まつり(金山町)

- 17日 ユネスコエコパーク連絡調整会議、(株)季の郷湯ら里取締役会
- 18日 臨時庁議、只見町誘致企業意見交換会
- 19日 南会津地方環境衛生組合議会定例会(下郷町)、南会津地方広域市町村圏組合議会定例会(南会津町)
- 20日 只見高等学校振興対策会議総会
- 21日 議会2月会議、議会全員協議会、議案検討庁議
- 25日 臨時庁議、新型コロナウイルス感染症対策連絡会議、南会津地方町村会並びに町村議会議長会合同懇談会(福島市)
- 26日 福島県町村会定期総会、福島県国民健康保険団体連合会通常総会、南会津地方町村会及び議長会 南会津地方における医師確保に関する福島県保健福祉部特別要望(福島市)
- 27日 只見ユネスコエコパーク推進協議会、一般質問検討庁議、新型コロナウイルス感染症対策連絡会議
- 28日 南会津地方振興局長来庁
- 29日 只見町山村教育留学生送別式



町民の消息

(1月26日～2月25日届出分) 敬称略

■お誕生おめでとうございます

三瓶 凌央 (男/友洋・美佳) 叶津
菅家 匠晟 (男/大和・香) 只見

■おくやみ申し上げます

馬場 欣一	85	長 浜
飯塚 久代	79	大 倉
目黒 幸夫	94	黒 沢
吉津 喜恵子	81	長 浜
渡部 次郎	87	小 川
船木 都男	88	黒 谷

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

令和2年2月1日現在

人 口	4,139 (-16)
男	2,025 (-10)
女	2,114 (-6)
世帯数	1,763 (-6)
高齢化率	46.3%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 2 転出 14 出生 2 死亡 6

▽今月号で「町史とつておきの話」は終了です。期間や内容、地域への想い、どれをとっても他所に誇ることでできる素晴らしい連載であったと思います。

▽多くの方から様々な研究成果を寄稿いただきました。こうした記録は、只見町に関する大変貴重な資料として残り続けます。

▽この場をお借りして、長きに渡り、編集活動にご尽力いただきました新国勇さんに御礼を申し上げます。25年間、本当にありがとうございました。

(橋本)

あとがき

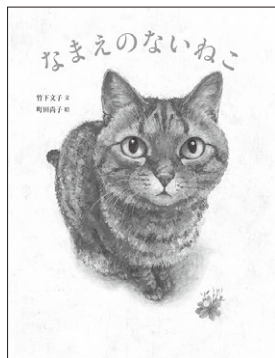
生涯学習サポーター
目黒美沙希

只見振興センター
図書室 ☎82-2141

おすすめ新着図書

★なまえのないねこ

竹下文子/文、町田尚子/絵 (小峰書店)



ぼくはねこ。なまえのないねこ。だれにもなまえをつけてもらったことがない。やお屋やしょてん、パン屋、そば屋、きさ店などのねこたちが、みんな持っているなまえ。「いいな、ぼくもなまえほしいな」

ある日、お寺のねこに「自分で好きななまえをつけばいいじゃない」と言われ、なまえを探すことに。自分でなまえを探すノラねこが見つけたほんとうにほしかったものとは？ リアルなタッチでえがかれるねこがかわいく、ねこ愛にあふれた絵本です。

★ファイナルファンタジーXIV 光のお父さん

マイディー/著 (講談社)



この本の主題は「壮大な親孝行計画」です。子どもの頃からすれ違い続けていた父。大人になった今、親子の絆を取り戻したいと思い立った著者は、ゲームが好きなお父をオンラインゲームへと誘い、息子だということを隠したままフレンドに。共にたくさんの冒険へと出て、息子であることを「いつの日か」名乗り出よう。

という大きな計画を綴った本です。年齢60を超えるお父さんが「光の戦士」となって奮闘する姿が描かれた実話ブログは大きな話題となり累計1000万アクセスを超え、誰もが「いつの日か」がくるのを見守りました。一風変わった親孝行の結末をぜひご覧ください。

☆その他にも図書コーナーにはたくさんの本が置いてあります。リクエストも随時受付けていますので、ぜひご利用ください。

町民憲章

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

アカゲラ (学名: *Dendrocopos major*)

【キツキ目キツキ科】



▲ 樹木の幹の中にある昆虫を探すアカゲラ

アカゲラは、ユーラシア大陸のヨーロッパから中東、シベリア、アジアにかけて、主に留鳥（渡りをしない鳥）として広く生息するキツキの仲間です。只見町ではアカゲラとよく似たオオアカゲラも見ることができます。アカゲラが全長およそ24cmなのに対してオオアカゲラは28cmと一回り大きいこと、また、アカゲラは黒い背に大きな白い斑があり、オオアカゲラは胸から腹にかけて黒い縦斑が入っている点で識別することができます。

アカゲラは、平地から山地の樹林を主な生息環境としており、町内ではしばしば見かけることのできる野鳥です。「キョ キョ」という声で鳴き、しばしばドラミングをします。キツキのドラミングは、なわばりの誇示などのために高速で樹木の幹を突いて音を出す行動で、森に響き渡るようなタラララという軽快な音が出ます。また、幹の枯れた部分に穴をあけ、材部をむしり取る様子を見ることがあります。これは、幹に巣くうカミキリムシの幼虫などを掘り出して食べているところで、こうして幹に穴をあける音は林の中で大きく聞こえるので、大きな動物がいるのではと思うほどです。アカゲラは、昆虫類をよく食べますが、秋冬にはホオノキの種子など植物質のものもよく食べ、季節に応じて食べ物変化します。

企画展 「只見の山を眺めれば…そこにある樹木に気づく企画展」

期 間：開催中～令和2年3月30日(月)

会 場：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー